

「食」の活動からつながる お互いさまのまちづくり



助言者
熊本学園大学社会福祉学部長
高林 秀明

日時 : 9月30日 (土) 13時30分~15時30分
場所 : 熊本学園大学 14号館 (熊本市中心区大江2丁目5-1)

コーディネーター
NPO法人ソナエトコ 理事長
水野 直樹



※参加対象 : 誰でも (18歳以上の熊本市中心区内に住む住民、中央区内で活動・通勤・通学、関係する多職種・多業種のみなさま)

プログラム

- 13:00~ 受付開始
- 13:30~ 開会挨拶
- 13:35~ 導入~「食」の活動がにつながるお互いさまのまちづくり~
- 13:50~ 「食」の活動の取り組み紹介
食の活動をされている方の声を聞き、参考にしましょう。
- 15:20~ まとめ・閉会・アンケート記入

「食」の活動 (コミュニティカフェ・地域食堂・子ども食堂など) の取り組みを通じて、地域の多様な人が参加できる“居場所”の取り組みが広がっています。「食」の活動は、他者のためになにかをやりたいと考える人の意欲を育て、意欲のある人を増やし、新しい取り組みが動き出す土壌となることがあります。各地域の取り組みを知り、皆さんの地域の強みやできることを考えましょう。

『出水校区 心と体のイキイキ教室』

主催 : 出水校区社会福祉協議会

『西原よって亭』

主催 : 西原校区自治協

『たくにし きずな食堂』

主催 : 託麻西校区社協

『たくとく 地域食堂』

主催 : 山川李好子さん、託麻東校区婦人会

『大江子ども食堂』

主催 : 熊本学習支援センター、大江校区社協

『子ども地域食堂 縁側サロン竹ちゃんち』

主催 : 竹下紀子さん、力合西校区民生委員

『はぐくみ地域子ども食堂大江』

主催 : 株式会社 はぐくみ

(メモ)

**気になった社会資源 (強み、できること) を
自分の地域に当てはめて、考えてみましょう!**

人	
場所	
物・資金	
情報 ネットワーク	

食×地域活動＝増福

みんなで作る 笑顔あふれる場

出水校区

心と体のイキイキ教室



取材動画



基本情報

【名称】 出水校区 心と体のイキイキ教室
 【住所】 熊本市中央区
 【開催場所】 出水地域コミュニティセンター
 【運営団体】 出水校区社会福祉協議会
 【代表】 栗原 静夫
 【開設】 2013年

【活動概要】
 活動日 毎月第4水曜 10:00-11:30
 参加費 一回100円 年で1000円
 参加人数 12~13名
 食数 30食程度用意

運営の様子や特徴

この『心と体のイキイキ教室』は、地域の交流の場・情報交換の場となっており、割合が増えている出水校区の高齢者の方の閉じこもり防止として開かれました。食生活改善推進委員会の皆さんや近くのデイサービスの職員の方々と協働で行っています。

保健師の方は参加者の血圧測定、デイサービス職員の方々はレクリエーションを通して参加者の認知症予防や脳の活性化を図っています。食生活改善推進委員会の皆さんは「身体に優しいもの」ということで、和菓子を中心にお菓子作りをしています。

代表の栗原静夫会長は、「出水校区の高齢者の方々が家にこもりっぱなしで気持ちが落ちないように、外に出てもらいコミュニケーションを図ってもらうためのツールとして、この『心と体のイキイキ教室』に参加してもらいたい」と話されています。

地域周辺の施設が考案したさまざまなレクリエーションを行い、食生活改善推進委員会の方々が作ったおやつを食べながら談笑、また他者との関わりをすることにより、参加者の方々の幸福度も高まっています。

カギとなる社会資源（強み、できること）

人	出水校区社会福祉協議会 食生活改善推進委員（季節と健康に配慮したおやつの提供） 地域包括支援センター（ささえりあ）の保健師（血圧測定） 病院職員（健康に関する特別講話） デイサービスの職員（レクリエーションの普及・啓発）
場所	出水地域コミュニティセンター
物・資金	出水校区社会福祉協議会 参加費（1回100円、年間で1000円）
情報 ネットワーク	住民団体のネットワーク 会長自らの声かけ



取材メモ

9:00 お菓子作り開始

3年ぶりのお菓子提供ということで、朝早くから食生活改善推進委員会の方々が集まってお菓子作りをしています。

9:30 健康観察

参加者の血圧を、ささえりあの保健師の方が測定します。

10:00 レクリエーション活動

- ①お手玉を投げて札の上に乗せ、乗せられた人が札をもらえるルールのかかるたゲーム
 - ②チーム戦で、サイコロを投げて出た数字の合計を競ったり、1～6までの数字を早く揃えるゲーム
- 最後に『ボケない小唄』を歌って、レクリエーションは終了です。

11:10 お菓子の提供

レクリエーションが終了した後は、食生活改善推進委員会さんの作った大福を食べながら参加者同士の会話を楽しまれていました。

11:30 帰宅・片付け



“大福”の作り方

材 料 (6個分)	
※ 白玉粉	100g
※ 砂糖	25g
※ 水	150ml
※ 粒みん	180g
※ 片栗粉	適量

- ① 粒みんは30gずつ丸めて用意する
- ② ボウルに白玉粉・砂糖を入れ、水を加えてなめらかにならざるまで混ぜる
- ③ ラップをかけて電子レンジ500Wで3分加熱する
- ④ しゃもじで水で濡らして混ぜ、再びラップをかけて電子レンジ500Wで2分加熱する
- ⑤ 再度水で濡らしたしゃもじで混ぜ、片栗粉で打ち粉をした台の上に餅を乗せる
- ⑥ スケッパーなどで6等分し、粒みんを入れ丸め形を整える



取材した感想

提供されていたよもぎ餅は食改さんの実家で育てた天然のよもぎを使用していることを知り驚きました！食品の品質や季節にも配慮しており体にやさしいおやつでした。おやつを食べる参加者の方々の笑顔がとても印象的でした。（新崎ひまり）

今回このサロンを取材させていただいたことで、社協の方々や食改さん、参加者の方々の活動への想いを理解することができました。このサロンには皆さんの想いが詰まっており、関わる全員が楽しんで活動を行うことで雰囲気の良いこの場が出来上がっていると、とても感慨深いと感じました。（齊田愛菜）

出水校区イキイキ教室には、さまざまな社会資源が活用されていました。周辺の人や場所と連携を取り運営されており、地域力の高いサロンだと感じました。（上原日菜子）

食を通して広がる 地域の笑顔

西原よってっ亭



取材動画

基本情報

【名称】西原地域食堂 西原よってっ亭
 【住所】①熊本市東区西原1丁目6-28
 ②熊本市東区保田窪本町4-15
 【開催場所】①西原地域コミュニティセンター
 ②保田窪公民館
 【運営団体】実行委員会(主に西原校区自治協)
 【代表】日隈 忍

【活動概要】
 2か月に1回
 参加費：無料
 開催周知と同時に事前予約をしている。
 食数：事前予約が約80食
 当日の予約無しが約20食
 (合計100食程度)

運営の様子や特徴

2月に1回、西原コミュニティセンターや保田窪公民館などで開かれています。地域に住んでいる高齢者の方や子どもたち、保護者の方といった様々な世代の方が利用されています。

カレーの提供を行っているのですが、一番の特徴としてカレーを作っている方たちが地域の男性の方たちという点です！

地域の中には、家に一人で暮らしており一日、誰とも話す事なく過ごす、一人で食事をしている住民の方が見えないだけで居る中で、「食」という人間誰にだって共通するものを提供したり食べる場所を設けることで人と人の繋がりを広げようと活動されています。

カギとなる社会資源 (強み、できること)

人	西原校区自治協議会、西原小学校PTA 地元の企業・事業所の方たち カレーを作るのが得意な地域の男性
場所	地域コミュニティセンター 地域公民館
物・資金	おいしいカレー
情報 ネットワーク	市役所・行政・地域包括支援センター (ささえりあ) 学校 自治会、住民団体 病院や介護事業所、企業など (西日本病院、朋岳園、鶴田病院、まるみつ東バイパス店、 徳永吉朗商店など) 地域こども食堂同士のネットワーク



取材メモ

10:00～ カレーを作っている方への取材

会場である西原地域コミュニティセンターに着いてから早速、カレーを作っている方たちにお話を伺った。その時にはカレーは完成しており味見を行っている場面でした。

私たちがカレーをいただきました。

10:40～ 移動

西原地域コミュニティセンターから保田窪公民館に移動をしました。これまでの西原地域コミュニティセンターでの活動だけではなく、保田窪公民館でも地域の子どもたちに向けて「食中毒予防の講話」を行うとのことでした。見学させていただく為に私たちが向かった時は準備を行っている最中でした。

10:50～ 代表である日隈忍さんへの取材

「西原よってっ亭」の代表である日隈忍さんにインタビューをさせていただきました。いつから「西原よってっ亭」の活動を行っているのか、地域と食の魅力について日隈さんがどのように考えていらっしゃるのかについて、お話してもらいました。

11:20～「食中毒予防の講話」

子どもたちに向けての「食中毒予防の講話」が始まりました。西日本病院の栄養士の方がスライドを用いて講話されていました。講話の中で教えてもらった知識を基に遊ぶ「手洗いカルタ」をグループに分かれて、子どもたちと高齢者がともにとても楽しんでいる様子でした。

11:45～「カレーの提供、食事」

「食中毒の講話」を終え、カレーの提供が行われました。テイクアウトも可能なので、テイクアウトして帰っていかれる方、そのまま公民館で食べていかれる方がいました。みんなと一緒に美味しい食べ物を食べるといった多幸感に包まれる空間でした！



取材した感想

「西原よってっ亭」さんへの取材を行い、活動を見学させていただく中で感じた事として参加者だけではなく主催者側もとても楽しそうに活動をしているのがとても印象的でした。

代表者である日隈さんが仰っていた『スタッフが楽しくなければ伝わらない、やる方も楽しくなるように心がけている』といった言葉の意味が取材している中で伝わってきました。

「食」の力で「地域」の人たちを結び付けるといった力、大切さを改めて感じる事ができとても有意義な時間を過ごすことができました。

世代を超えて絆を感じる 憩いの場

たぐにしきずな食堂



取材動画



基本情報

【名称】 たぐにしきずな食堂
 【住所】 熊本市東区八反田3丁目8-1
 【開催場所】 八反田公民館
 【運営団体】 託麻西校区社会福祉協議会
 ききよの会、
 託麻まちづくりセンター
 ささえりあ保田窪、西日本病院
 【代表】 大島 完治
 【開設】 2021年

【活動概要】
 子ども地域食堂
 毎月第2日曜日 10:00~12:00
 参加費 中学生以下無料・大人200円
 食数 100食

運営の様子や特徴

託麻西校区の八反田公民館で毎月1回開かれている子ども地域食堂です。地域に住む子どもやその保護者、そして高齢者など幅広い世代の方々が利用されています。地域の民生委員やボランティアにより構成された「ききよの会」の皆さんが美味しいカレーを作ってくれます！

コロナ禍で外に出る機会が減り、人と関わることで体がなくなってしまった状況に置かれても、地域の中で集まり、おしゃべりできる場所が必要だという思いから設立されました。この「たぐにしきずな食堂」が地域の憩いの場となり、食の面から住民の皆さんの生活を支えています。

カギとなる社会資源（強み、できること）

人	地域に住む子ども・保護者、高齢者 ボランティア 民生委員・児童委員
場所	八反田公民館 託麻西校区社会福祉協議会
物・資金	地域の農家 託麻西校区社会福祉協議会 県、JA
情報 ネットワーク	学校、病院、行政（まちづくりセンター） 地域包括支援センター（ささえりあ）



当日の流れ

8:30 仕込み開始

西日本病院の栄養士さんの指導の下、「ききょうの会」の皆さんがカレーを作ります。

9:30 子供たちが来館

この日は雨だったため、室内で絵本の読み聞かせや手作りの紙芝居が行われていました。近くの公園でインストラクターを呼び、トランポリンをすることもあったそうです。

10:00 レクリエーション活動

11:00 カレー配食、
野菜・パックご飯 配布

入り口で販売している食券と引き換えにカレーの配食を行います。テイクアウト方式での提供で、皆さんそれぞれご家庭に持ち帰っていました。また、地域の農家さんなどからのご厚意で頂いた、ジャガイモと玉ねぎ、パックご飯が配られていました。子どもたちにはポケモンの定規セットとシールが配られていました。

12:00 反省会、片付け

カレーの配食が終わり次第、調理器具や調理室の片づけ・清掃を行います。毎回の最後には反省会を開き、気づきや改善点の共有を行います。



運営者の声

コロナ禍の中で開始されたこの「たくにし きずな食堂」ですが、多くの住民の方々がこの場所を訪れる、地域の中で欠かせない場所となっています。

代表の大島さんにお話を伺うと、大変なこともあるが、やはり皆さんが笑顔を見せてくれることや良かったという声にやりがいを感じると話されていました。

また、「ききょうの会」をはじめ、ささえりあ、まちづくりセンター、西日本病院の方々が運営スタッフとして動いてくれること、そして農家さんや地域の企業が無償で物資などを提供してくれること、といったように地域の方々の協力があってこそこの活動が成り立っていると話されていました。



取材した感想

今回、「たくにし きずな食堂」さんにお邪魔して、活動の様子を見学させていただきました。

代表の大島さん、そしてボランティアの皆さんがこの活動に対してとても熱心に取り組まれており、だからここに来る子どもから高齢者の方まで幅広い世代の住民の方々の笑顔があふれる場になっているのだと感じました。

カレーを作ったりおしゃべりをするのが住民の交流の場となっていました。こういったインフォーマルな支援を通して住民の生活に寄り添うことが、より良い地域社会を作っていく上では欠かせないと思います。

「たくにし きずな食堂」のような場所が地域の中での繋がりが希薄化している現代においては求められると思います。誰もが気軽に集まり、交流できる場をもっと増やすために、私たちが社会福祉の知識を活かして推し進めていかなければならないと感じました。

こころとからだ 食で元気に たくとう地域食堂



取材動画



基本情報

【名称】 たくとう地域食堂
 【住所】 熊本市東区戸島3丁目15-5
 【運営団体】 託麻東校区婦人会
 【場所】 託麻東小学校横
 託麻東地域コミュニティセンター
 【代表】 山川 季好子
 【開設】 2015年

【活動概要】
 (日時) 第1・3木曜日 午前7時～
 (費用) 小・中学生、75歳以上の方 → 無料
 大人 → 200円

運営の様子や特徴

子どもたちが学校の前に朝ご飯を食べることができるよう、朝7時から食事の提供を行っています。野菜や卵などの食品は無償で提供してもらい、その時の食材に合わせて献立を立てているそうです。パンではなく必ずご飯を提供すること、子どもたちが食べやすい料理にすること、おかずの品数を多めにすることなど、子どもたちのために思ったこだわりが沢山あります。

また、大事な成長の時期に朝ご飯の習慣をつけることや、食事の大切さを学んで貰うために、朝ご飯の大切さや栄養バランスについて話したりと「食育」にも力を入れています。



卵
(佐藤鶏卵 提供)



野菜
(くまもと有機の会 提供)



できあがった朝食の例

カギとなる社会資源 (強み、できること)

人	託麻東校区婦人会 地域住民 小学校の先生
場所	地域コミュニティセンター (早朝からの仕込み) 小学校の敷地内
物・資金	くまもと有機の会・佐藤鶏卵・坂本製油 フードバンク・政府の備蓄米 住民団体からの助成金・個人の寄付等
情報 ネットワーク	地域・こども食堂同士のネットワーク

利用者の方の声

地域食堂を利用してよかったことについて

(当日利用していた小中学生)

- ・お腹いっぱい食べることができる
- ・バランスの良い食事を取ることができる
- ・友達と一緒に食べることができて楽しい
- ・無料で食べることができる
- ・おいしい



(当日利用していた保護者の方)

- ・出勤時間が早く朝はバタバタしているため、地域食堂の存在はありがたい
- ・栄養バランスのとれた食事をお友達と食べることができるのがよい

などの声を聞くことができました。

ボランティアの皆さんの声

地域食堂のボランティアを始めたきっかけについて

- ・ボランティアに関心があったから
- ・誘われて
- ・自分が子育てをしていた時期に周囲の人にお世話になったため、次は自分がサポートしたいと思ったため

参加してよかったこと

- ・仲間ができ、趣味の共有ができるようになった
- ・子どもたちが喜んでくれる
- ・家にずっといるよりも、外に出て活動したほうがよい

などの声を聞くことができました。



取材した感想

取材をさせて頂いた日、学生も料理の盛り付けや配膳、受け付けなどのお手伝いにも参加しました。当日は約50名が食堂に来て、みんなお喋りをしながら食事を楽しんでいる様子でした。

山川さんは、「子どもだけでなく親も一緒に地域食堂を利用し、食の大切さについて知って欲しい」と仰っていました。

また、たくと地域食堂は託麻東小校区外の方でも利用可能との事だったので、関心のある方はぜひ行ってみてください。

フリースクールと地域のチカラで 子どもと高齢者がつながる場 大江子ども食堂



取材動画



基本情報

【名称】大江子ども食堂
 【住所】熊本市中央区大江3丁目6-8
 三祐ビル3階
 【開催場所】熊本学習支援センター
 【運営団体】熊本学習支援センター
 【代表】仙波 達哉
 【開設】2020年10月1日

【活動概要】
 大江子ども食堂（現在は弁当配布）
 毎月2回（第2、第4土曜日）9:00-13:00
 参加費 子ども100円・大人200円
 （お弁当は予約制）
 食数 約70食

運営の様子や特徴

フリースクール熊本学習支援センターが主催する大江子ども食堂は、グリーンコープ生協くまもとやフードバンク・農家の方や知人、大江校区社会福祉協議会と協力して、支援して頂きながら運営をされています。

運営は、熊本学習支援センターの職員数名とボランティアの皆様がされており、貧困の世帯や苦しい思いをしている子どもたちを助けたいという思いから始まりました。

今では利用者も増え、地域の方との繋がりも増えています。今後は、大江校区の誰もが集まれる食の場を作ること目標に頑張られています。

カギとなる社会資源（強み、できること）

人	地域に住む子ども・家族 フリースクールに通う児童・生徒 ボランティア 高齢者
場所	フリースクール 熊本学習支援センター
物・資金	グリーンコープ生協くまもと、フードバンク、農家
情報 ネットワーク	大江校区社会福祉協議会



取材メモ

9:30 調理開始

ボランティア、職員の方とお弁当の準備を行いました。それぞれの料理が終わったあとは、みんなで
お弁当の盛り付け、袋詰めをしました。

当日のお弁当のメニューは、ミンチカツ、パオズ、きゅうりとちくわ、いか天とかぼちゃの煮物、
インゲンのごま和え、豚汁でした。



12:00 お弁当配布

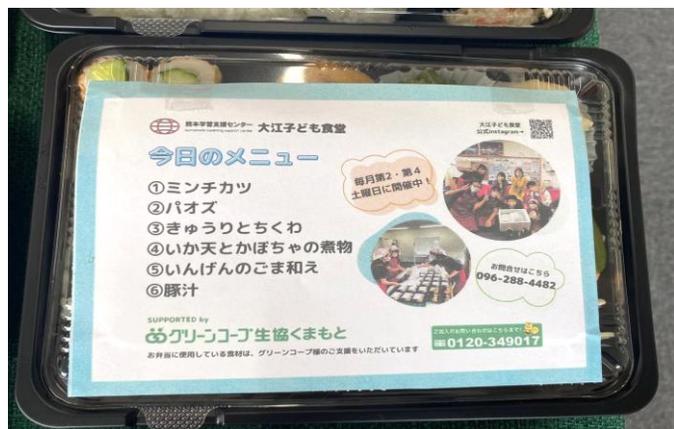
班分けをし、事前に予約されていた方の家に配達をしました。

お弁当を受け取られた方の笑顔が印象的でした。



13:00 会食

お弁当を配達後、お弁当を作ったボランティアの方や職員で会食をして、活動が終わりました。



取材した感想

今回、熊本学習支援センター主催の大江子ども食堂さん取材し、実際にボランティア体験もさせて
頂きました。ボランティアには子どもたちも参加しており、和気藹々とした空間でした。お弁当を作り
終わった後は、班分けをし、県営団地に配達しました。子どもと高齢者の方が触れ合う機会がそこにあり、
届けられた方には笑顔があふれていました。今後は、一つの大きな給食となって、地域みんなで楽しめる
ような交流・つながりの場になってほしいと思いました。

熊本学習支援センターでは子ども食堂の他にも、様々な理由で不登校の状態にある子ども、
様々な困難を抱えた子どもたちを対象に学習支援を行っています。ボランティアスタッフ
を中心とした学習の個別サポート、また、みんなで一緒にお話やトランプなどをしたりと
子どもたちが過ごしやすい環境、居場所づくりにも取り組まれています。公式LINE、
Instagram、事務所での対応もされているので、困っている方、関心のある方はぜひ
お問合わせください。

熊本学習支援センター
InstagramQRコード



ごはんのチカラで人々がつながる場

子ども地域食堂

縁側サロン竹ちゃんち



取材動画

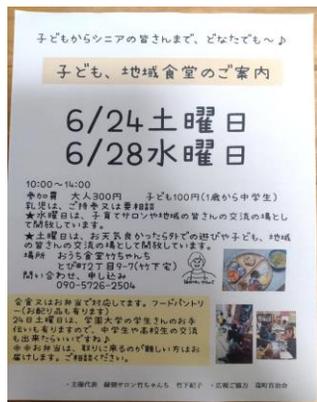
基本情報

【名称】子ども地域食堂
縁側サロン竹ちゃんち
【住所】熊本市南区鳶町2丁目9-7
【開催場所】自宅（上記住所）
【運営団体】非営利団体 縁側サロン
【代表】竹下 紀子
【開設】2014年5月26日

【活動概要】
食堂（弁当配布・会食）
月2回(第4水曜日・土曜日) 10:00-14:00
参加費 子ども:100円 大人:300円
食数 基本は予約制（飛び込みは要相談）

運営の様子や特徴

老若男女誰でも利用することができる『縁がわサロン竹ちゃんち』です。代表の竹下紀子さんを中心に、竹下さんのお友達お2人、鳶町子ども会や学生のボランティア等がたくさんの方が協力して、活動しています。美味しいごはんを食べたり、室内や屋外で遊んだり、新しい出会いでつながりをつくり、楽しく活動しています。食材は、地域の方やフードバンク、JA等からいただいています。その時々で、仕入れた食材が変わるので、毎回違う献立で、たくさんのおいしいごはんに出会うことができます。子どもが遊んでいる間に、親御さんは情報交換や悩み相談をしたり、少しでもリラックスできる時間をつくることができます。モットーは、「できることを！できるしこ！」です。



カギとなる社会資源（強み、できること）

人	竹下さんのお友達 子ども会、自治会等の住民団体、民生委員・児童委員 学生ボランティア
場所	自宅 (公民館、地域コミュニティセンター、介護老人保健施設)
物・資金	【物】熊本県からの感染対策物資 【資金】熊本市助成金、参加費、講演料、自費
情報 ネットワーク	子ども食堂同士のネットワーク 民生委員・児童委員、自治会等の住民団体 SNS、チラシ



取材メモ

【6月24日（土）】

9:00 運営メンバー集合

七夕が近かったため、願い事を書いた紙を参加者に笹に飾ってもらうための準備として折り紙を使った飾りつけをしました。



9:30 調理開始

利用者さんが好きな時間に来られて、ごはんの時間まで休憩したり、遊んだり、お話ししたり、自由な時間を過ごします。

10:00 子ども食堂オープン！

竹下さんとお友だち2人を中心として、会食、お弁当の準備を同時進行で行う。

〔会食〕味噌ラーメン、煮物、ピクルス、おにぎり、からあげ、サラダ、みかんの寒天 子ども：7食 大人：4食

〔弁当〕雑穀米、煮物、ピクルス、からあげ、魚フライ、サラダ、みかんの寒天 子ども：11食 大人：10食

11:00 お弁当配布開始

事前に予約された方々がお弁当を取りに来る、または、予約された方の家に配達に行きました。その際に、保存用食品、レトルト食品、お野菜（近所の方のおすそ分け）、お米（事前の予約が必須）を一緒に配りました。



11:40 会食開始

参加していた子どもたちのおなかやすいた頃だったので、屋内で会食をしました。ご飯の時間に合わせていらっしゃる利用者さんもいました。



12:30 片付け・自由時間

会食会場や食器の片付けをしながら、子どもたちと遊んだり、親御さんと子育てや家事、お仕事の両立の大変さ等を話し、たくさんのことを学びました。

14:00 子ども食堂おわり！

それぞれ好きな時間に帰っていらっしゃいましたが、最終は14時です。

帰るときに、レトルト食品、お野菜（近所の方のおすそ分け）、赤ちゃん用の離乳食、子ども用の麦茶の素、子ども用パックジュース、お菓子を配りました。

インタビューしました！

・Aさん 女性、子ども2人、仕事有

竹ちゃんちは、知り合いからの紹介で知った。2人目を妊娠中に足を怪我し、お弁当を配達してもらったことがきっかけで利用。頼れる人が身近におらず、ここを利用することで少し休憩ができる。他のママさんたちと子どものことについての相談や話を聞いたりすることができるし、その間、子どものことを見てもらえるから息抜きができる。これからも利用したい。

・Bさん 女性、子ども4人、仕事有

仕事、家事、育児の両立が大変。特に平日は仕事がみんなあるから、簡単には頼れない。頼れるものは頼りたい。



取材した感想

今回参加したことで、困っている人がいることを知って、何らかの支援を行うための場だけではなく、この食堂に来た人同士のつながりや地域住民のつながり、施設や機関、組織のつながりをも行うことができる場であることを実感しました。

また、竹下さんの「できることを！できるしこ！」のモットーのもと、地域で協力して活動することで、高齢者の孤立防止や子育ての孤立防止、地域活動の活性化など、どの課題にも包括的に支援ができることを学びました。

この活動が増えてたくさんの人の「よりどころ」になるような「つながり」ができていいなと思いました。

子どもから高齢者まで みんなが集まり 支え合う場



取材動画

はぐくみ地域子ども食堂大江

基本情報

【名称】はぐくみ地域子ども食堂大江
 【住所】熊本県熊本市中央区大江4丁目2-65
 【開催場所】グランパレッタ熊本1F
 ポムの樹跡
 【運営団体】一般社団法人あゆみ
 株式会社はぐくみ
 【代表】野村 順子
 【開設】2021年8月18日

【活動概要】

- 子どもから高齢者まで誰もが利用できる地域・こども食堂の運営
 - ・会食時間 土曜日17:00~19:00
 - ・参加費 子ども0円 大人300円
 - ・食数 60~70食
- 学習支援(主に小中学生対象)や手作り教室
 - ・学習・交流時間 土曜日14:00~16:00
- フードパントリー
- 相談支援(悩みを持つ親御さんの相談などを各種専門機関につなぐ)

運営の様子や特徴

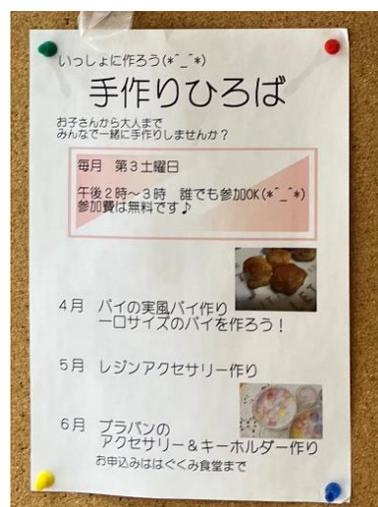
子育て世帯・ひとり親世帯だけではなく、老若男女問わず地域の方々に来ていただき、「食」を通して「年齢を問わず地域みんなが集まり支えあう場」や、家庭でも学校でも職場でもない「第三の居場所」を創ることを目指し活動されています。同建物に映画館、近隣にショッピングセンターがあることから、家族みんなで利用されている方も多く見受けられます。

また、交通アクセスが良いところに立地しているため、車を持っていない人でも来やすいようになっています。元レストランだったことから席数が多く、抵抗なく入ることができるのが特徴です。栄養バランスが考えられた温かい食事の提供はもちろんのこと、お箸の持ち方などのマナーを学んだり、偏食を無くしたりするお手伝いができればと食育にも力を入れておられます。

会食前には、第一土曜日「おこづかい教室」、第二土曜日「お習字教室」、第三土曜日「手づくり教室」、第四土曜日「少年少女発明クラブ」を開催されており、子どもたちの賑やかな声で溢れています。

カギとなる社会資源（強み、できること）

人	ボランティア(学生、専業主婦、栄養士など) 高校時代の同級生(パン屋)、趣味仲間(魚屋)
場所	大規模商業施設(グランパレッタ熊本1F)
物・資金	フードバンク、フードドライブ、ブーランジェリー9B(パン屋) ファミリーマート、イオン、ゆめマート、クリーンコープ クラウドファンディング、個人・企業からの寄付
情報 ネットワーク	地域・こども食堂同士のネットワーク



利用者の方の声

祖母・孫(小4)

ボランティアの方の紹介で来た。ご飯に困ってはいないがこども食堂に興味があり来てみた。

家族6人(子ども4人)

ほかの所にも行ったことはあるがここの雰囲気や人がすごくいい。食事は毎回違うし美味しい。ふれあいや出会いの場所。

一人暮らしの女性

栄養のある食事がとれる。大勢で食べると美味しい。習字や手芸を若い人たちとやるのが楽しみ。

ボランティアに参加している方

高校生



<参加したきっかけ>

お母さんが昔子ども食堂でボランティアをしており、自分も高校生になったらしようと思っていた。

<参加してみて>

自分たちにもできる仕事があった！いろんな年代の人がたくさん手伝っていていいなと思った！

<参加したきっかけ>

趣味である魚釣りのチームで代表の野村さんと知り合った。子ども食堂をしていることを知り、自分たちでは食べきれない魚を提供するようになった。現在は魚を下ろして調理しやすいようお手伝いをしている。

<参加してみて>

特別なことはしていない、自分ができていることをやっているだけ。それが周りの役に立っていると、ちょっといいことをしたと思えてその日の晩ぐっすり眠れる。

魚屋さん



引用：はぐくみ地域子ども食堂大江Facebook

取材した感想

食を通して「年齢を問わず地域みんなが集まり支えあう場」を創ることを目指し活動されているはぐくみ食堂を取材させていただき、つながりの大切さを改めて学ぶことができました。

このような居場所があることで、地域の中で孤立する方を防ぐきっかけになると思います。地域・こども食堂は、地域福祉を推進する上で欠かせない重要な存在だと感じました。



令和5年度 中央区お互いさまのまちづくり啓発事業

「食」の活動からつながる お互いさまのまちづくり

主催：熊本市中央1地域包括支援センター ささえりあ熊本中央
熊本市中央2地域包括支援センター ささえりあ本荘
熊本市中央3地域包括支援センター ささえりあ子飼

熊本市中央4地域包括支援センター ささえりあ白川
熊本市中央5地域包括支援センター ささえりあ水前寺
熊本市中央6地域包括支援センター ささえりあ帯山

共催：熊本学園大学社会福祉学部社会福祉学科

助成：熊本市中央区役所 福祉課

協力：熊本市障がい者相談支援センターちゅうおう 熊本市障がい者相談支援センターウィズ 熊本市中央区まちづくりセンター
熊本市東2地域包括支援センター ささえりあ保田窪 熊本市南3地域包括支援センター ささえりあ熊本南